

働いてよし&暮らしてよし むらやまの企業

山形放送株式会社

山形市にある山形放送株式会社の若手社員、中川悠さん取材しました！

中川さんは兵庫県出身であり、2022年に入社しました。

現在は、報道制作局アナウンス部でアナウンサーとして勤務しています。

また、経営管理局総務部専任部長の鷲田久さんにも同席していただきました。

(1) 仕事内容編



——現在の仕事内容を教えてください。

まずテレビの仕事では、ニュース番組の「YBC news every.」でフィールドキャスターという役割をしています。何をしているのかというと、取材ですね。記者の人と一緒に取材に行って、インタビューやリポートをします。先日には大雨がありましたが、そういった場合の中継も担当します。県内中継だけではなく、全国中継になる場合もあります。外に出かけて、実際に話を聞いたり自分でリポートをしたりする仕事ですね。

内容にもよりますが、ニュースの取材は基本的にはその日のうちに完結することが多いんです。取材に出かけて、持ち帰った内容について記者の方が原稿を書いて編集し、夕方のニュースの枠でオンエア（放送）するというような流れです。番組にはメインキャスターの小坂さんと山川さんがいらっしゃるので、先輩たちとのスタジオ展開、掛け合いで進行します。

それから、ラジオの仕事も担当しています。「ミュージックブランチ」という2時間の生放送のラジオ番組なのですが、ここでショッピングや、ニュース、お天気、交通情報を伝え

ています。この番組では、リスナーさんから本当にたくさんのメッセージが届くんですね。「こういった曲をかけてください」、「休みの日にこんなことしてたんですけど、どうですか?」のように、300 通ぐらい届くんです。

——え！ それは一日に？

はい。2 時間の番組の中で平均的に 300 通ぐらい届いていて、その中から選んで紹介して、「ラジオネーム〇〇さんからです。こういうことがあったそうです。私もこういうことがあって、知ってるんです」と言ったり、逆に「知らないので教えてください」と言ったりすると、またたくさんのメッセージが来るんですよ。

この番組は私一人でやっていて、マイクの前には本当に私一人しかいない。だから私と何千人、何万人の、こう、なんというか…。

——生配信のような。

そうですね。そういうイメージです。

ラジオは音だけなので、内容をいかに伝えるかがとても難しくもあり、面白くもあるところ。例えば「〇〇に行ってきました」ということも、テレビであればその場所の映像を見せることができますが、ラジオでは「こういう色で、こういう人がいて、こういったことを見ました」といったことを全て自分で説明しないといけないんです。だから、リスナーさんに情景を思い浮かべてもらえるような説明を心がけています。

このラジオはワンマン進行で、CM を出すタイミングやどの BGM をかけるかなど、全部自分で担当しています。もちろんスタッフさんもいて、メッセージや電話の受付などを手伝ってくれるんですが、放送に関係する部分は全て自分でやっています。

それからもう一つ、「ゲツキンラジオぱんぱかぱ〜ん」という 3 時間 20 分の生放送番組も担当しています。この番組は先輩のアナウンサーと二人での進行ということと、お昼の時間にワイドに行うということもあって雰囲気も少し違います。地元の話題が比較的多いように思いますね。ゲストを呼んでスタジオで話すこともあれば、電話を繋いで「そちらの状況はどうですか？」と聞くこともあります。



——アナウンサーという仕事は、時間の作り方がすごく難しいというか、日によって大きく変わるというようなイメージがあるのですが、何か工夫されていますか。

確かに、取材の内容によっては朝 5 時に会社を出発することがありますし、逆に昼から取材ということもありますね。私の場合は、なるべく早起きするように心がけています。朝 7 時までにはとにかく絶対起きる。取材がない、あるいはお昼から出かけるという場合には、10 時半頃に出勤することが多いんですね。だから朝の時間をなるべく有効活用できるように工夫しています。いつも 7 時に起きていれば、朝 5 時出勤となっても調整しやすいですよ。10 時半出勤であれば 9 時半に起きて間にも合うかもしれませんが、なるべく朝の時間は一定になるようにしています。夜は基本的にオンエアまでとなるので、19 時半ころには帰ることができます。夜のルーティーンもほぼ動かさないように徹底していますね。

——アナウンサーの仕事をしていてよかったと思った経験はありますか。

アナウンサーとして最初の番組は「ゲツキンラジオぱんぱかぱ〜ん」で、このラジオの中でニュースを読みました。この時のことは忘れられませんね。そこがいわゆるスタートラインというか……なりたかったアナウンサーに、ようやく仲間入りができたんだという感覚がすごくありました。

同期が最初のニュースを読んで、私は後半のニュースを担当したんですよ。まず同期を見守って「あ、無事に読めた。次は私だ」というような、今までの人生で一番緊張した瞬間かもしれないと思うくらいでした。本当に。ビビってるな私、って思っていました。ただ、本当に色々な人が見守ってくれていました。みんながこう、娘のように。それはとても嬉しかったです。放送後にリスナーさんもたくさんメッセージをくれました。



———逆に、仕事をする上で大変なことについて教えてください。

直近では、最上と庄内の大雨の取材は、精神的にも体力的にも大変でした。朝に出勤して、庄内が大変だから出かけるとなったものの、帰れなくなって泊まりになる。こうした体力的に辛いタイミングがありました。それから、これはもちろん私だけではなく、被災された方もそうだと思いますが、自然災害の恐怖を感じました。

そして、大変な思いをされている方にマイクを向けることがとてもしんどかったです。「どんな状況だったんですか？」とか「今どんなものが大変なんですか？」といったことを聞くのがすごく苦しかった。今までインタビューした中で一番苦しいって思いました。でも、こういう仕事をしていくにあたっては、目を向けないわけにはいかない。試練だと思った瞬間

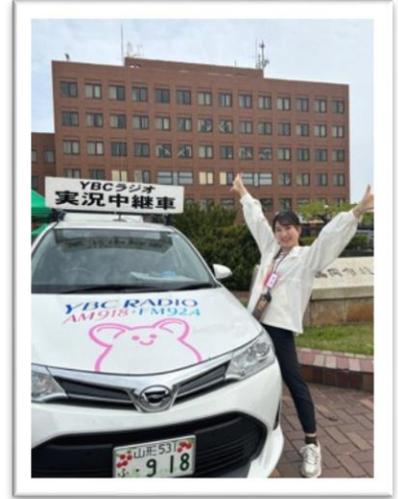
働いてよし、暮らしてよし むらやまの企業

山形放送

でした。災害がないに越したことはないのですが、アナウンサーという仕事について改めて考える経験になりました。



(2) 職場編



——兵庫県のご出身とのことですが、なぜ山形放送に勤めようと思われたのですか。

自分の就活の軸として、甲子園でアルバイトをしていた経験もあり、青春を謳歌している人を称える、頑張っている人にスポットを当てるような仕事がしたいということがあり、アナウンサーという仕事ができたら良いなと考えました。青春というと、甲子園のようにスポーツの大きな舞台を想像するかもしれませんが、それだけではなくて、一生懸命農業をする、マイナーなスポーツに取り組むといったことも同じだと思います。だからこういった機会にたくさん出会えるテレビ局が良いなと考えていました。地元の放送局でアナウンサーになるということもすごく良いなとは思いましたが、これまで自分が住んでいなかった場所でも、頑張っている人にフォーカスする機会がたくさんあるところが良いな、と。

——山形放送に入社してよかったと思うことはありましたか。

私は就職するまでは東北に縁もゆかりもありませんでしたが、ここにはテレビもあってラジオもあって、イベントやスポーツの大会もたくさんある。それから、地方局ということもあってか、皆さんに娘のような感じで接してもらえるんですよ。関西にいた時に見たアナウ

ンサーは、テレビで見る人というか、自分とはちょっと離れた存在、身近ではない人でした。でも今は、七日町で会ったら「はるちゃん！」って言ってくれるんですよ。こういったことは山形の県民性なんだろうなと思います。それで私も、この仕事とこの場所は自分に合っているな、山形で良かったなと感じます。

——福利厚生に関して何か特徴的な制度はありますか。

(中川さん)

アナウンサーには、衣装の手当があるんですよ。

(鷲田さん)

住宅手当は全員にありますが、衣装手当はアナウンサーに特徴的な制度ですね。

(中川さん)

衣装手当は大きいですね。もちろん同じ服を着ていても良いかもしれませんが、色々あった方が良いので、ありがたいなと思っています。

——この会社に入って良かったと思うのはどのような時ですか？

若い人に挑戦させてもらえる会社だなと思います。ミュージックブランチもそうですが、3年目でワンマンのラジオを担当させるというのはなかなかないのではないのでしょうか。おそらく不安な要素もたくさんあるだろうに。でも「頑張れ」とサポートしてくださる環境です。



(3) ある日の過ごし方編

●8:30 【出社】

ラジオ OA 準備、当日の原稿や天気情報等を確認

●9:00 【ミュージックブランチ OA スタート】

アナウンサーによるワンマン運行。

ニュース・天気・交通情報に加えて、リスナーから届くメッセージを紹介しながら、曲だしも行います。



●11:30 【ニュース取材】

報道部の記者と一緒に取材へ。

内容は、野菜高騰の話題。スーパーでインタビューを行います。

●13:30 【昼食】

働いてよし、暮らしてよし むらやまの企業

山形放送

近くのラーメン店へ。

取材がない日は、デスクで手作り弁当を食べることが多いです。

●15：00 【ナレーション収録】

スタジオでCMのナレーションを収録。



●16：30 【YBC news every. OA 準備】

原稿や映像の確認をして、OAに向けて準備します。

●18：15 【YBC news every. OA スタート】

スタジオで展開させることも。お天気コーナーも担当します。



●19：30 【帰社】

番組OA後、反省会をして帰ります。

(4) むらやまでの暮らし編



——仕事が終わって帰宅した後は、どんな風に過ごしていますか。

帰ってからはラーメンを食べに行くことが多いです。

——おすすめのお店はありますか？

なんだかんだ好きなのは、ケンチャンラーメンですね。ワシワシ系の麺に、あれは醤油ラーメンですかね。しっかりこうガツンと来る感じ。結構好きなんだなーって思って。麺ワシワシ系が好きです。

——「ある1日の過ごし方」で、手作り弁当を食べることが多いと伺いましたが、家ではどのような料理をされるのでしょうか。

えーと……「名もなき料理」です。土日には頑張ってビーフシチューとかちょっと凝った料理を作ってみるのですが、平日は、これは果たして料理名はなんなんだろうっていうものを作ることが多いです。

最初は料理をすることをあまり想定していなかったのですが、流石に何かした方が良くかもしれないという危機感を覚えて、一年目すぐの土日に色々なものを買そろえたんですよ。そうしたら母から「意外とちゃんとやってるんだね」と言われました。

——オフの日はどのように過ごされているのでしょうか。

車を持つようになってから、県内の色々なところに行っています。県内の35市町村を制覇するのが直近の目標で、残り9まで来ました。これはなんだかんだ仕事にも繋がる部分が

山形放送

ありますね。リスナーさんから「〇〇という場所の話」とメッセージが届いた時に、自分でもその場所が分かる方が良いなと思うんです。自分で運転をすると「あ、ここ国道何号なんだ」、「この地名はこう読むんだ」という発見があります。

先輩たちに連れて行ってもらったり、取材で出かけたりすることもあるのですが、プライベートで行くことで、より親近感を覚えますね。これは車を持って動くようになってよかったことです。なるべく土日はぐうたらしないって決めています。



——ご出身の兵庫県は都会というイメージがあるのですが、それと比較して山形県はどうでしょうか。

私は兵庫県の神戸市にいましたが、都市部ではなくて住宅街に住んでいました。でも、通っていた大学はいわゆる街中であって、周りには色々なものがありました。

山形に来て良かったと思うところとして、まず通勤がしやすいところです。この良さに気付くと、満員電車には戻れないと思ってしまいます。のんびりしている感じが良いですね。昔は駅にいても「なんでみんなそんな急いでいるの？」と思うぐらいせかせかかして、今でも神戸空港に着くと「おおっ」となってしまいます。もちろん都会の良さもあると思いますが、私にはこちらが合っているのかな、自分の性格の感じにも合うのかなということはずごく思います。なんというか、穏やかな心の状態を保てる気がします。

何度か友達が遊びに来たことがあるのですが、みんな揃って「山形いろいろあるやん」と言っています。山形ってお勧めしたいスポットがたくさんありませんか？ 休みの日に出かけるところとか、ちょっと観光するスポットが身近にあるから、「山形めっちゃいいとこやん」と言ってもらえるのがすごく嬉しいです。だから遊びに来た友達から「山形なめとったわぁー」と言われたらよっしゃ！ってなります。



(5) まとめ編



——仕事をしていく中で、今後の目標はありますか。

やっぱり今は「テレビが家にない」という人もいますし、ラジオも聞かないという人が多くいる中で、この先テレビ局は難しい時代だと思います。今は YouTube の配信を見る、と言う人も多いですよね。こうした中で、テレビ局で働くということを考えると、存在意義のようなものを確立させていきたいですよね。

テレビをつけなくても YouTube を見てもいいし、ラジオを聞かなくても自分の好きなアーティストの曲を聴けばいいし、SNS だって発達しています。そこでテレビやラジオを使って何かをするなら、テレビやラジオだからこそその面白さを見つけていかないといけないと思います。テレビ局だからということで取材させていただいた時もあったので……色々と、出しどころを増やしていかないと、とは考えています。

——「出しどころ」とは？

テレビもラジオも SNS も、YouTube もありますが、色々な媒体を上手く使える人になりたいです。新しい情報はネットニュースでももちろん読めるし、AI のアナウンサーもたく

さん出ている中で、普通のアナウンサーができることは何なんだろうということは考えなければいけないなとは思っています。だからラジオのフリートークのように AI にはできないようなことを、その人の持つ人柄や雰囲気を変えられる人になりたいですね。

ところで、皆さんは普段テレビを見ますか？

——いやー、実はちょっと…。

そうですね。そうした人にも見てもらえる、見ようと思ってもらえないとダメだなと思いますね。どうすれば良いかという答えはなかなかすぐには出てこないんですが。

色々な取材をきっかけに、そこからどうやって膨らませていくか、展開していくかというのはこちら側の問題でもあります。より興味を持ってもらえるように、人との縁も含めて大事にしていきたいですね。

——最後に、これから就活する学生へ向けて、アドバイスをお願いします。

私はテレビ局を 50 社受けていて、しんどかったんですが、これほど自分と向き合う時間はそれまでにはなかったなと思いました。就活サイトにもよく書きますが、就活をするとなった時には、自分との向き合い方ももちろん大事なのですが、自分が他人からどう見られているのかにも気づく機会だと感じました。だから、人と話をする時間を割いて欲しいです。それは家族かもしれないし友達かもしれないし、私の場合はアルバイト先の大將でもありました。とりあえず人と話すということですね。これが何のためかということ、面接練習になり得るのかもしれないし、「あなたのこういうところがいいね。」って言ってもらえるきっかけなのかもしれません。就職活動ではエントリーシートを書く、自己 PR を考えるなど様々な要素があると思いますが、会話をする上でのヒントをもらえるような、そんな時間をたくさん作ってほしいです。就職活動はしんどいと思いますが、予定を詰めすぎていっぱいいっぱいになってしまうのではなく、人と話をしてみてください。



———ありがとうございました！

普段はテレビの中にいる存在なので、遠い人だと思っていましたが、色々な貴重なお話を聞いてとても有意義でした。話を聞く中で、アナウンサーという職業に就くことも大変だし、アナウンサーになってからもとても大変なお仕事だなと感じました。このような機会がないとアナウンサーの方とお話しできる機会はなかったと思うので参加して良かったと感じました。そして、アナウンサーの方はお話しがうまくて、とても羨ましいなと感じました。

【インタビュアー：山形大学工学部 村椿彩華 渡辺千晶、
人文社会科学部 今井秀和】



山形放送株式会社

【 県内で最も親しまれている放送局 “YBC” 】
YBC の強みであるテレビ・ラジオ放送、イベント運営のノウハウを活かし、SNS、ネット広告、動画配信、アプリ等の様々なメディアと組み合わせた企画展開中！

働いてよし、暮らしてよし むらやまの企業
山形放送

★テレビ年度視聴率 31 年連続三冠達成（民放最長記録更新中）

- ・所在地 山形県山形市旅籠町 2 丁目 5-12
- ・設立 昭和 28 年 10 月
- ・従業員数 127 名（男性 82 名、女性 45 名）
- ・事業内容 テレビ・ラジオの民間放送局
- ・URL <https://www.ybc.co.jp/>

